

論理的思考力を育成する小学校国語科授業の設計(2) —佐世保市立歌浦小学校における意見文指導を通して—

原 田 義 則 [鹿児島大学教育学系(国語教育)]

Designing an elementary school Japanese language curriculum to foster logical thinking (2): Written opinions and guidance at Sasebo City Utagara Elementary School

HARADA Yoshinori

キーワード：論理的思考力、意見文指導、ペンタゴン・ロジック、ダイヤモンド・サイクル

1. 問題の所在

本研究の課題としている論理的思考力については、原田(2018)⁽¹⁾及び原田(2019)⁽²⁾において以下のように定義した。

a：国語科における論理的思考力とは、文章内容について構造的に把握できること。

b：国語科における論理的思考力とは、文章形式について把握・活用できること。

aは、読み手が文章内容を「主張(claim)」や「事実(data)」等の要素に分けたり、それらに関係付け把握したりすることを意味する。国語科の授業場面では、文と文の関係性を表す接続詞の働きや頭括型や双括型等の文章構成の工夫を理解し、トップダウン的に文章を読み進めていくことが考えられる。それに対してbは、書き手のレトリックを活かし読み手を説得する文章、すなわち論理的な文章を書いたりすることが考えられる。

論理的思考力の育成については、系統的・継続的な学びが必要である。平成16年2月に文部科学省文化審議会が示した「これからの時代に求められる国語力」の中では、図1の「発達段階に応じた「国語教育における重点の置き方」のイメージ」を示し説明している(下線部は稿者による。)

第1 国語力を身に付けるための国語教育の在り方

1 国語教育についての基本的な認識 <発達段階に応じた国語教育の具体的な展開>

(2) 3歳～11・12歳(小学校高学年くらい)まで 【基礎作り期】

(前略)小学校では「話す・聞く」に加えて「読む・書く」の「繰り返し練習」により国語力の基礎となる知識を確実に身に付けさせることが重要である。特に「読み」の学習を先行させることで、言葉の知識(特に「語彙力」)を増やすことに重点を置くべきである。

(3) 13歳(中学生)以上 【発展期】

(前略)国語科の学習においては当然のことであるが、様々な社会体験、社会科や理科の学習などを通して、論理的思考力の育成に努めることが重要である。また、脳の「情報処理能力」が飛躍的に伸び

る時期であるので、多くの読書体験により、情緒力・想像力・論理的思考力・語彙力の総合的な発達を促すべきである。

「国語教育」の基本的な在り方として、小学校では「情緒力・想像力・語彙力」の育成が重視され、中学校以降において「論理的思考力」育成が重視されている。また、「論理的思考力の育成」については、同書「2 学校における国語教育（2）国語科教育の在り方」において、以下のように述べている。（下線部は稿者による。）

論理的思考力の育成は、国語科が大きな役割を担うべきである。日常生活の論理は言葉の論理でもあるので、言語を通して身に付けるのが最も効果的であると考えられるからである。具体的には、文章を書くことの指導や自分の考えや意見を述べる機会を多く設けることなどにより、論理的思考力を高めていくことが必要である。

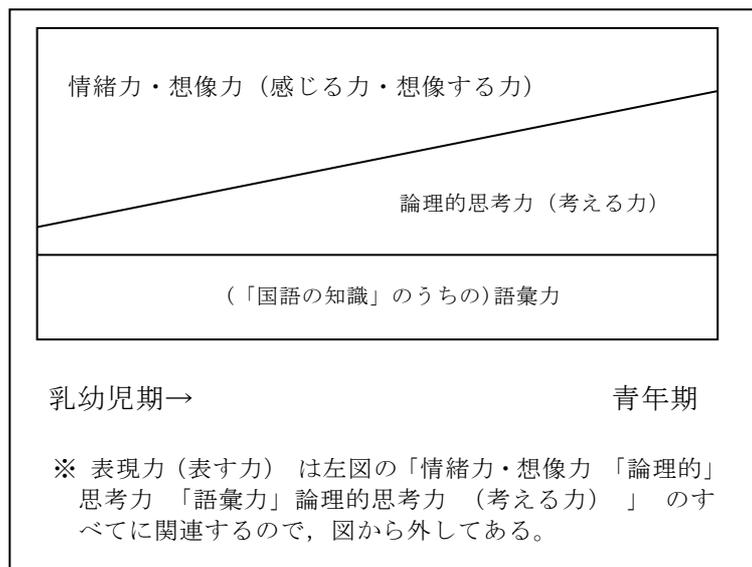


図1 発達段階に応じた「国語教育における重点の置き方」のイメージ

小学校では「読みの学習」の先行、語彙力の育成が重視されている。また、中学校では論理的思考力まで含めた、総合的な発達を促すべきだとする。しかし、この資料が示された平成16年から約15年経った現在、Society 5.0 という未来社会の姿が提唱され、求められる学校教育の内容も変わってきた。例えば、平成29年改訂の幼稚園教育要領においても、幼児期の終わりまでに育てほしい姿（10の姿）の一つとして「思考力の芽生え」が示され、最近の全国学力調査小学校国語においては、論理的思考力に関する問題の正答率が低いという指摘が続いている。⁽³⁾ 論理的思考力の育成は、もはや中学校だけに担わせる時代ではない。小学校国語科においても、これまで以上に、効果的な授業実践が必要である。

2. 本実践に至るまでの経緯

論理的思考力を育む小学校国語科授業とは、どのような授業か。授業を設計する上で、新学習指導要領において新設された、「情報の取り扱い方」がヒントとなる。

今回、国語科の「思考・判断」の領域に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が位置

づけられたが、その全てに「情報の取り扱い方」の文言が反映されている。例えば、本稿が対象とする「書くこと」では以下のように反映されている。(稿者が反映部分に下線。)

表1 情報の扱い方に関する事項(中学校は割愛。)

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
情報と情報との関係	ア 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方, 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

【第3学年及び第4学年「B 書くこと 考えの形成・記述」】

ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫すること。

【第5学年及び第6学年「B 書くこと 考えの形成・記述」】

ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに, 事実と感想, 意見とを区別して書いたりするなど, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

さらに, 第5学年及び第6学年「B 書くこと 題材の設定, 情報の収集, 内容の検討取材」の解説及び言語活動例には, 次のような記載がある(下線部は稿者による。)

- ・ 集めた材料を分類したり関係付けたりするとは, 集めた材料を書く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり, それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることである。(中略) 賛成の立場から集めた材料と反対の立場から集めた材料とに分類することで, 一方の立場からの材料の不足に気付き, 更なる情報収集の必要性を感じることも考えられる。集めた材料相互の関係が整理されることによって, 示すべき理由や事例などの事実が絞られ, 伝えたいことを明確にすることができる。
- ・ 意見を述べる文章を書くとは, 理由や事例を明確にしながら, 筋道を立てて自分の考えを述べることである。例えば, 自分の考えを, 異なる立場の読み手に向けて主張する文章や, 自分たちの生活をより良いものにするために提案する文章, 事物のよさを多くの人に推薦する文章などを書くことが考えられる。

論理的思考力を育成するためには, 「これからの時代に求められる国語力」で指摘されていた「文章を書くことの指導や自分の考えや意見を述べる機会を多く設けること」であり, 新学習指導要領「書くこと」で述べられている「事実や理由を明確にした主張文(意見文)を, 異なる立場の読み手を想定しながら書くこと」が重要であることが分かる。

また現行の小学校教科書では, 「意見を聴き合って考えを深め, 意見文を書こう」(6年教材「未来がよりよくあるために」)⁽⁴⁾において, 「主張」「事実」「理由」「予想される反論」「それに対する考え」を織り込んだ意見文を書く活動が設定されている。ちなみに, 新学習指導要領に則した新教科書(光村)では, この教材は5年教材に下りてきている。⁽⁵⁾すなわち, 小学校国語科授業においては, 意見文指導が一つの方策となることが分かる。しかし, 本県の小学校現場からは戸惑いの

声も聞かれる。「小学生にはむずかしい」「大切なのは分かるが、どのような授業か。授業のイメージが湧かない」「時間がかかりそう」「トップダウン方式で、型を教えることに抵抗がある」「反対の立場から質問を想定することが難しい」等の声である。⁽⁶⁾ 意見文指導において、児童の実態を考量し効率的で、他の教科にも転移できる授業モデルはないか。

今回、佐世保市立歌浦小学校から稿者に依頼をいただき、2単位時間の単元を特設し、5年生学級のゲストティチャーとして授業を行うことになった。児童、職員に全く面識がない学校である。授業内の学業指導的なことは、学級担任にお願いし、稿者は後述する「ペンタゴン・ロジック」、「ダイヤモンド・サイクル」の授業モデルとしての有効性について、検証することとした。

今回、この貴重な機会を与えてくださった歌浦小学校に、ここに記し謝辞としたい。

3. 研究実践の概要

3.1. 授業設計上のポイント

今回の授業実践で、ポイントとしたのは、以下の3点である。

- A 「型」を知り、その良さに気付く授業。
- B 反対の立場からの質問を受け止め、より深く考えることができる授業。
- C 協働的に意見文を作る中で疑問を持ち、質問することの良さについて振り返る授業。

3つのポイントを踏まえる方法として、2時間完結型の小単元及び独自のワークシートを開発し、授業を展開することとした。なお、ワークシートのイラストは割愛する。

佐世保市・鹿町の魅力を語り合おう ①-1

5年 氏名 _____

◎ どちらのひとと友達になりたいと思いますか。

<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-bottom: 5px;">①</div> <p style="text-align: center;">ディズニー映画 キャラクターA</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-bottom: 5px;">②</div> <p style="text-align: center;">ディズニー映画 キャラクターB</p>
--	--

・私は、(① ②) だと思う。
・(① ②) は、となりの人と比べて _____ である。
・このことから、 _____ と考えられるから。

佐世保市・鹿町の魅力を語り合おう ②-1

5年 氏名 _____

◎ 佐世保市・鹿町の魅力について、ペンタゴン・ロジックで考えよう。

図2 4時間目に使用したワークシート

3.2. 小単元「佐世保市や鹿町の魅力を語り合おう」の設定

『角川 類語新辞典』(大野晋他, 1981)によれば、「疑問」とは「疑わしいこと」とされる。一方「質問」とは、「分からないことを問いたすこと」とされる。同義に思えるが、「疑問をもつ」という文には違和感がないが、「質問をもつ」は落ち着かない。「質問をする」の方が自然な表現であるよ

うに思う。すなわち、「質問をする」には、TPOに応じた表現力も必要とされるのではないだろうか。この視点は授業を設計する上で重要な視点をもたらす。疑問は個人の既有知識との差異から生じ、質問は他者との関係性が影響すると仮定すると、授業内では個人の中に疑問を持たせる工夫と、他者に質問をさせるための工夫が必要であることが分かる。ダン・ロスティン他 (2015) (7) は、生徒たちに質問をさせるためには、「質問に対する評価をしない」、「発言のとおり質問を書き出す」等を挙げている。質問することは、他者との応答に至るコミュニケーションへの入り口である。それ故に、疑問を待ちつつも質問することに躊躇う場合もあろう。この抵抗感を、少しでも軽減していくことが大切である。

以上の点を踏まえて、小単元名を「佐世保市や鹿町の魅力を語り合おう」とし、鹿児島市から来た稿者に「修学旅行地として鹿児島市より佐世保市が良い」という意見文を協働的に書き上げるという学習活動を設定した。授業学年の5年生は、他教科で学習した佐世保市の歴史・自然・施設と、稿者が準備した鹿児島市観光パンフレットを比較することで、疑問を持つことができる。

また、質問することへの抵抗感を減らすために、付箋の使用や質疑応答モデルを示すこととした。

3.3. 学習指導の流れ (下線は稿者。後述する「児童の反応」と対応している。)

佐世保市立 歌浦小学校 第5学年 国語科学習指導案

令和1年6月24日(月) 4・5校時
 児童：5年生 計14名
 指導者 T1：歌浦小学校 田中伶武
 指導者 T2：鹿児島大学 原田義則

1 単元名 佐世保市の魅力を語り合おう

2 本時 (1.2/2)

(1) 目標

知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項	思考力、判断力、表現力等 B 書くこと
○佐世保市の情報と修学旅行に関する情報を結び付けて、その対応関係について理解する。 【(2) 情報ア】 ○主張、事実、理由、反証(質問、説明)による情報同士の関係付けの仕方を理解し使う。 【(2) 情報イ】	○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。 【B 書くこと ア】 ○事実と感想、主張とを区別して書く。 【B 書くこと ウ】 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、文章を整え、よいところを見付ける。 【B 書くこと カ】

(2) 展開

過程	時間(分)	学習活動	指導上の留意点
つかむ	8	1 2時間を貫く学習課題を知る。 ・ 佐世保市が修学旅行地としての推進について力を入れていることを知る。 ・ 佐世保市と鹿児島市を比較し、説得力をもった伝え方で T2 に佐世保市の魅力を伝えることを知る。 2 学習課題をつかむ。 説得力をもった伝え方で、佐世保市や鹿町の魅力を伝えよう。	・ T1 が知らせる。 ・ 佐世保市観光コンベンション協会の情報を紹介。(実際に、小学校修学旅行隊の誘致を行っていることを知らせる資料の提示) ・ T1 が板書。

		<p>3 学習の流れを確認し、振り返り方を知る。</p> <p>・佐世保市や鹿町の魅力を伝えるワークシートを、三角ロジックで書く。</p> <p>・「ペンタゴン・ロジック」でワークシートを完成させる。</p> <p>・全体の前で発表する。</p> <p>・「ダイヤモンド・サイクル」で振り返る。</p>	<p>・T2が説明。</p> <p>・学習の流れ、三角ロジック、「ペンタゴン・ロジック」「ダイヤモンド・サイクル」については、電子黒板(プロジェクターでも可)で説明する。</p> <p>・T2が説明。</p> <p>・電子黒板の使用。</p>
調べる・深める	32	<p>4 三角ロジックの「型」を知り、その良さに気付く。</p> <p>・キャラクターを見比べて、友達になりたい理由を発表する。</p> <p>・意見がスムーズに述べられるように、次の話型を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>主張：私は、① or ② だと思う。 事実：① or ② は、隣の絵と比べて～なっている。 理由：このことから、～と考えるから。</p> </div> <p>・主張、事実、理由付けをすると、自分の意見がスムーズに考えられたり表現できたりすることに気付く。 →可視化・図形化し「三角ロジック」を知る。</p> <p>5 三角ロジックで、ワークシートを書く。</p> <p>・修学旅行地として佐世保市(鹿町)の魅力を思い浮かべる。</p> <p>・資料で確かめたり、友達と情報交換をしたりする。</p> <p>・三角ロジックで、佐世保市(鹿町)の魅力をワークシートに書く。</p> <p>・ペアで一枚のワークシートを完成させる。 (ペアは、通常の席順のペア。)</p> <p>・「おいしい食べ物があるから」「きれいな場所があるから」などの観点を抽出して、グループを再編成する。</p> <p>・全体の前で発表する。</p>	<p>・話型の提示</p> <p>・T2が説明。</p> <p>・主張は「修学旅行地は、鹿児島市より佐世保市や鹿町がよい」に揃える。</p> <p>・書画カメラを使って、発表させる。</p>
	5	<p>6 反論を踏まえた意見文の「型」を知り、その良さに気付く。</p> <p>・T1が作ったワークシートを提示する。</p> <p>・T2が、理由に対して質問を行う。</p> <p>・T1が、クラスの子供たちと一緒に再反論をする。 →可視化・図形化し「ペンタゴン・ロジック」を知る。</p>	<p>・T1作成の資料</p> <p>主張：修学旅行地は、鹿児島市より佐世保市(鹿町)がよい。</p> <p>事実：ハウステンボスがある。</p> <p>理由：楽しい思い出ができるから。(鹿町の様子分かるから。)</p> <p>・T2の質問： 修学旅行は楽しいだけでよいのか。</p> <p>・T1 & 子供たち： 確かに・・・でも、勉強ばかりだと社会科見学と変わらない。修学旅行には、一生の思い出も必要だ。だから・・・</p>
	38	<p>7 「ペンタゴン・ロジック」を完成させ発表する。</p> <p>・他ペアとワークシートを交換する。</p> <p>・他ペアのワークシートについて、鹿児島市の観光資料を参考にしながらT2の質問を予想し、質問(複数可)を付箋に書いて貼り、元のペアに戻す。</p> <p>・戻ってきたワークシートを見ながら、他班からの質問(付箋紙)を整理し、採用する質問を決定する。</p> <p>・質問に対する反論を考え書き、ワークシートを完成させる。</p> <p>8 他ペアと発表し合い、良い点を評価し合う。</p> <p>・分かりやすく、納得できるものになっているか。</p> <p>・修正した方が良い点はどこか。</p>	<p>・T1の指名。</p> <p>・各自で観点を選択し、本時の学習を振り返る。</p> <p>・できるだけ、4つの観点が網羅できるように指名する。</p> <p>・質問することの良さに気付かせたい。</p>
まとめる・振り返る	7	<p>9 「ダイヤモンド・サイクル」で振り返る。</p> <p>・各自で観点を選択し、振り返りを書く。</p> <p>ア 理解したこと</p> <p>イ 活かそうな事</p> <p>ウ 友達の意見に納得したこと</p> <p>エ さらに追及したいこと</p>	<p>・T1の指名。</p> <p>・各自で観点を選択し、本時の学習を振り返る。</p> <p>・できるだけ、4つの観点が網羅できるように指名する。</p> <p>・質問することの良さに気付かせたい。</p>

3.4. 児童の反応 (T-C 形式)

指導案上のポイントを視点として、授業のプロトコルを示す (T1 = 学級担任, T2 = 原田, C = 児童, Cn = 児童複数の発言。)

A-1 三角ロジックの「型」を知り、その良さに気付いた場面 (下線は、稿者。)

- ・ 学習指導案上の活動：学習活動4 三角ロジックの「型」を知り、その良さに気付く。

- ① T2 : さあ、みんなワークシートを出して。どっちの人と友達になりたいですか。
 ② Cn : えっ。
 ③ T2 : 10秒考えて。どっちと友達になりたい。10秒、隣の人と話し合っ。
 ④ Cn : (子供たちが笑顔で語り合う様子が見られる。)
 ⑤ T2 : (10秒後) じゃあ、発表してくれる。(1人だけの挙手。)
 ⑥ T2 : 一人だけ? 残念だなあ、これね、テストじゃないからね、正解は無いんだよ。もっとたくさん手が挙がらないかな。じゃあ、あと5秒だけ話し合っ。(5秒後) はい、どうぞ。おっ、たくさん挙がったね。じゃあ、どうぞ。
 ⑦ C I : 私は、右側の人と友達になりたいです。
 ⑧ T2 : なぜ。
 ⑨ C I : 左側の人、目つきが悪い。(笑)
 ⑩ T2 : 目つきが悪い、と思ったのは、どこを見て。
 ⑪ C I : 目の形。つり上がっている。
 ⑫ T2 : 右側の人。
 ⑬ C I : 目が丸くて、優しそう。
 ⑭ T2 : なるほど。C1さんは、右側の人と友達になりたい。左側の人と比べて、目が丸いので、優しそうだと思ったということですね。
 ⑮ T2 : 他の人はどうですか。どうぞ。
 ⑯ C2 : ぼくも、右側の人です。笑顔だから、正義感が強そうに見えたからです。
 ⑰ C3 : ぼくは、左側の人と友達になりたい。美人だから。(笑)
 ⑱ T2 : どこを見て、美人だと思ったの。
 ⑲ C3 : 肌がきれい。(笑)
 ⑳ T2 : なるほど。最初から、文を整理するよ。C3さんは、左側の人と友達になりたい。それは、肌がきれいなので、美人と思ったから。
 ㉑ C3 : (頷く。)
 ㉒ T2 : (少し間を置く。) あかね、今、3人の話し方が、同じだったのに気が付きましたか?
 ㉓ Cn : 結論を言った。(間を置く) それから、見た目。そして、理由。
 ㉔ T2 : そうだね、よく気が付きました。素晴らしい。じゃあ、今のことを分かりやすくするために、この三角形(板書する)で整理してみよう。(以下、三角ロジックの説明へ。)

A-2 「ペンタゴン・ロジック」の「型」を知り、その良さに気付いた場面

- ・ 学習指導案上の活動：学習活動6 反論を踏まえた意見文の「型」を知り、その良さに気付く。

- ㉕ T2 : 4時間目は、あと5分ですね。では5時間目にするのを確認しますね。今、みなさんは「主張」「事実」「理由」を完成させましたね。5時間目は、原田先生が「えっ、修学旅行って『きれいな場所があるから』だけでいいの、と質問するかもしれません。それに対しては、みんなは質問に対して言い返して欲しい。説明して欲しい。そしてだから鹿児島市より佐世保市の方がいいよね、ともう一度主張して欲しい。
 ㉖ Cn(子供から感嘆の声) : あ〜っ。
 ㉗ T2 : 5時間目は、これをします。
 ㉘ Cn : はい。
 ㉙ T2 : ただしね、質問は自分で考えるんじゃないかと、友達と一緒に考えてほしい。どういうことかという、まず、みんな原田になって欲しい。いやかもしれないけれどね。
 ㉚ Cn : (笑い声、隣の人と顔を見合わせて、笑顔。)
 ㉛ T2 : そしてこのグループとこのグループが、ワークシートを交替して、「原田先生だったらこんな質問をするんじゃないかな」と考えて、この付箋に書いて貼って欲しい。そして、ワークシートを戻します。こうして、5時間目は、意見文を完成させていきます。
 ㉜ T2 : じゃあ、残り4分だね。質問を出して、説明するというのを試しにやってみましょう。じゃあ、(黒板に張ったワークシートを指して)このハウステンボス(の例)で考えてみましょう。(佐世保市には)ハウステンボスがある。えっ、(鹿児島市より佐世保市が修学旅行地として良いという)理由はなあに? ハウステンボスは、きれいだから。きれい?ん?修学旅行って、きれいだけでいいの・・・?と、原田先生から、もし質問がきたらどうしよう。どう言い返しますかって、試しにやってみましょう。
 ㉝ Cn : ん〜っ。(納得の意)

- ③④ T 2：じゃあ、原田先生は今から教室から出ますから、担任の田中先生いっしょになって、原田先生にどんな風に言い返すか、作戦会議をしてください。じゃあ、2分後に戻ってきますね。(原田は退出、隣の学級で待機。)
- ③⑤ T 1(学級担任の田中教諭)：ハウステンボスは、きれいだけじゃないよ！って反論、反論無いかな。(即座に、児童2人が挙手。)
- ③⑥ C n：はい、先生。
- ③⑦ T 1：近くの人と話し合っ。何かないか。
- ③⑧ C n：(子供たちの話し合いが続く。2分後、原田が入室。)
- ③⑨ T 1：では、発表してください。
- ④① C 1：はい。ハウステンボスは、きれいだけでなく、宿泊もできる。
- ④② T 2：なるほど、宿泊もできる。鹿児島市に、宿泊もできるテーマパークは無い・・・。
- ④③ C 2：ハウステンボスには、多くの植物がある。植物の生態を調べることもできる。
- ④④ T 2：調べ学習もできる・・・なるほど。負けそうだなあ。(他の児童も挙手するが、さえぎって)時間がきたので、ごめんね。続きは、5時間目。ちょっとワークシートを見てください。
- ④⑤ T 2：5時間目は、今のように、原田先生からこんな質問が来るんじゃないかな、と質問を出し合っ、その説明を考えてもらいます。そして、ワークシート「2—③」を完成してもらいます。では、これで4時間目を終わらしましょう。

B 反対の立場からの質問を受け止め、より深く考えている場面

- 学習指導案上の活動：学習活動7「ペンタゴン・ロジック」を完成させ発表する。

- ④⑥ T 2：では、できた意見文を発表してもらいましょう。田中先生に、主張、事実、理由を読んでもらいます。そして、原田先生の質問として予想した、友達からの質問を、原田先生が読みますね。そして、ワークシートを書いた人は、それに対する説明を行い、反論してもらいます。では、(黒板に張ってもらったワークシートを指しながら)このワークシートから。
- ④⑦ T 1：鹿児島市より佐世保市の方が、修学旅行地として良い。佐世保市には、ハウステンボスがあり、花の王国や光の王国があるからです。
- ④⑧ T 2：えー？(修学旅行は1年中いつでも実施されるが)花の王国は、いつでも実施されるのですか？
- ④⑨ C 3：確かに、花の王国や光の王国はいつもしているのですか、という質問があるかもしれません。しかし、パンフレットには「1年中している」と書いてあります。
- ④⑩ T 2：パンフレットに、もう少し詳しく書いているの？(子供たちはすかさず、パンフレット確認をする。)
- ④⑪ C 4：(書いてある箇所を見つけて音読する)「花は1年中枯れないように管理しています」
- ④⑫ T 2：なるほど。(拍手)
- ④⑬ T 2：では、今度は最初から全部、前に来て発表してください。(中略)
- ④⑭ C 5：佐世保市には、佐世保バーガーやとらふぐがあります。このことから、おいしいものがあるので、修学旅行にはいいと思います。
- ④⑮ T 2：(予想した質問を音読)修学旅行って、「おいしい」だけでいいの？鹿児島にも、かるかんがあるよ。
- ④⑯ C 5：確かに、食べることで何を学ぶのですかという意見もあるかもしれません。しかし、たとえば、佐世保バーガーは、米軍から伝わったことや、ふぐは鹿町の入り江を使った養殖で育てられたものなので、その土地の歴史や特色を学ぶことができます。だから、修学旅行地として、鹿児島市よりも佐世保市がいいと思います。
- ④⑰ C n：(拍手)(※参観していた同校教員も大きく頷く。)

C 協働的に意見文を作る中で疑問を持ち、質問することの良さについて振り返る場面

- 学習指導案上の活動：9 「ダイヤモンド・サイクル」で振り返る。

- ④⑱ T 2：(ワークシート例2の拡大図を見せながら)
では、手を挙げてもらいましょう。何回も手を挙げていいよ。
①番を書いた人。(挙手5人。)
では、②番を書いた人。(挙手5人。)
③番を書いた人。(挙手3人。)
④番を書いた人。(挙手1人。)
みんな、すごいね。では、③番を発表してもらいましょう。
(指名した児童のワークシートの内容を読み)
んー、これは、①番の内容でもありそうだね。
では、どうぞ。
- ④⑲ C 6：(右図)僕は、質問されたことに、説明をすることで、どんどん考えたので、(質問することは)必要だと思いました。

◎ 佐世保市・鹿町の魅力について、ペンタゴン・ロジックで考えよう。

- ・(主張) 修学旅行地として、佐世保市(鹿町)が鹿児島市より良い。
- ・(事実) 佐世保市(鹿町)には、佐世保バーガーやとらふぐがあります。

佐世保は

- ・(理由) このことから、おいしいものがあるので、修学旅行にはいいと思います。
- ・(質問) 確かに、食べることで何を学ぶのですかという意見もあるかもしれません。
- ・(説明) しかし、たとえば、佐世保バーガーは、ベイコンから伝わったことや、ふぐは、鹿町のいりえきばすようしゅくで育てられたものなど、そのとちの良さや、とくらふことを学ぶことができる。

① 分かった

④ 質問 ③ 納得

② できた・活かそう

・選んだ番号(③)

・質問されたこの説明が必要だてことがわかりました。

図3 5時間目に使用したワークシート

3.5. 授業の考察

3.5.1 「型」を知りその良さに気付く授業であったか

授業の導入では、児童に馴染みのある2人のディズニー・キャラクターを提示し、「どちらと友達になりたいか」という発問を行った。発問に対する回答は、「主張」に当たる発言⑦C1「私は、右側の人と友達になりたいです」が出され、その後、教師の発問に答える形で、理由「優しそう」と事実「目が丸い」が述べられた。以下、同様の問答を繰り返した後、三角ロジックの「型」に気付かせる発問②T2「今、3人の話し方が、同じだったのに気が付きましたか?」を行った。児童は、共通点に気付いた発言③C「結論を言った。(間を置く)それから、見た目。そして、理由。」をした。児童の表情からも、「型」に対する興味を持ったことがうかがえた。また、4時間目末に「ペンタゴン・ロジック」の説明を行ったが、その際にも児童が興味を持った反応⑥「あ〜っ。」(感嘆)、③③「ん〜っ。」(納得)の声があった。

3.5.2 反対の立場からの質問を受け止めより深く考えることができる授業であったか

「佐世保バーガーやとらふぐがあること」から、「ベイコン(米軍)から伝わった歴史」や、「地元の入り江を利用した養殖という特色」と結び付けた意見文(③③~③⑤)が発表された。発表した児童は、他班からの質問「修学旅行は食べるだけでいいのか。」と言う質問に対して、佐世保市のパンフレットで調べたり、「とらふぐ」について調べていた児童と対話したりしていた。他者からの質問を受け止め、調べ直した知識と結び付け、深く考えることによって主張文を強固にしたと考えられる。

3.5.3 疑問を持ち、質問することの良さについて振り返る授業であったか。

本授業では、「佐世保市に関する知識=教材の内容」を深めるだけでなく、「三角ロジック・ペン

タゴン・ロジック＝意見文を書くための方法」の良さについて認識することか目標であった。

疑問もつことから、質問することへと至るように工夫した点は、以下の通りである。

- ・「理由」として挙げられた内容「〇〇〇」を、「〇〇〇だけでいいの？」と繰り返すだけの質問でも良いとしたこと。授業では、「ハウステンボスが『きれいから』という理由だが、修学旅行地は、『きれいから』だけでいいのか。鹿児島市にも、きれいな場所はある。その理由では納得できない。」という質問例を紹介。
- ・付箋に無記名、単語で質問を書かせることにより、質問することへの抵抗感を軽減した。振り返りのワークシートには、「内容」と「方法」に関する感想がそれぞれ見られた。授業の中では、「方法」に関する振り返りをしていた児童を指名した。㉞の発言にあるように、他者からの質問を道標に、考えを深められることの良さを実感していた。

4. 研究実践の成果と課題

授業後、担任への聞き取り取材から以下の点が明らかになった。

- ・ペンタゴン・ロジックを使った学習したことで、「書くこと」が苦手な児童たちが「考え方が分かった」「考えるのが楽しかった」と日記に綴っていた。「考えること」を心地よく感じていた。
- ・児童から、「学習の振り返りをし易くなった」という声が聞こえた。
- ・テストの中で、「思考・表現」の分野の点数が上がってきた。要因として次の点が挙げられる。
 - ア 観点を決めて振り返ることで、学習内容の定着化につながった。
 - イ 「書くこと」を厭わなくなり、「無答率」が大きく減少した。

わずかに2時間の授業であったが、担任は児童の変容から、本授業を「論理的思考力の授業設計モデル」として、受容していることがうかがえた。

今後は、今回の授業実践を基にして学級担任による授業実践の回数を重ね、児童の反応例の収集及び分析をすることで、論理的思考力を育む小学校国語科の意見文指導モデルの構築を図っていく。

5. 参考文献

- (1) 原田義則・上原孝夫・永野佑樹「国語科授業における論理的思考力の育成－協働的学習の視点から－」, 鹿児島大学教育学部実践紀要第27巻, 2018
- (2)・(3) 原田義則「論理的思考力を育成する小学校国語科授業の設計－小学校5年生の実態調査から－」, 鹿児島大学教育学部実践紀要第28巻, 2019
- (4) 光村図書『国語六 創造』, 平成26年3月, p.98-99
- (5) 光村図書『国語五 銀河』, 「読み手が納得する意見文を書こう」平成31年2月, p.174-179
- (6) 「鹿児島国語研究会 原国会」には、月例会に約30名前後の小学校教員が参加する。その中で、毎回のように出される声を集約したものから、抜粋した。
- (7) ダン・ロスステイン, ルース・サンタナ, 吉田信一郎訳『たった一つを変えるだけ クラスも教師も自立する「質問づくり」』, P42, 新評論, 2015